

不登校対策 委員意見の整理と課題

1 第1回での委員の意見

- (1) 【教職員・学校における取組】
- 担任を補佐するプロフェッショナル（SC・SSWr）の力が必要。
 - 「見る」から「観る」へ、「聞く」から「聴く」へ、子どもたちの内面をきちんと見ることができる教員の力が必要。
 - 家庭の問題や友人関係など、不登校の理由は様々なので、個に応じた対応が必要。
 - 担任が声かけや家庭訪問等、きめ細かな対応ができるような環境をつくる施策ができないか。
 - 不登校の兆候への気づきや具体的な対応方法を学ぶための教員に対する研修が必要。
 - 自己肯定感や自己有用感を感じられる活動の充実により、魅力ある学校作りができないか。
 - 教室へ行けない児童生徒を受け入れるために、相談室（別室）の充実ができないか。
- (2) 【保護者と協働した取組】
- 新しく中一になる保護者に対しての導き、保護者との協働が大切。
 - 保護者が不登校について勉強したり、学校や関係機関とつながりを持つことが必要。
- (3) 【学校内にとどまらず、中学校卒業後の対応など、切れ目のない社会資源とのつながり】
- 不登校児童生徒の卒業後の生活を見据えた福祉機関・心の専門的な機関へのつながりが重要。
 - 卒業後も切れ目なく社会資源へつなぐために、他機関についての説明や紹介が必要。
 - 全国的に成果を上げている事例を参考に静岡市としても何か取り入れることはできないか。
 - 静岡型不登校対策の模索。

2 協議のポイント

- (1) 教職員の児童生徒への理解、不登校対応実践力を磨くためには、どのような研修体制が必要か。
- (2) 保護者と協働して不登校支援をしていくためには、どのような取組が必要か。
- (3) 学校内にとどまらず、中学校卒業後の対応など、切れ目なく社会資源とつながっていくための手立てや支援方法は何か。

3 他市における不登校対策取組事例

- 【「特別支援教室」の効果的な運営（神奈川県横浜市）】
 学校内に不登校児童生徒が通える「特別支援教室」を設置し、教員一人当たりの授業時数を調整して二人の教員を専属配置した。教室に行けない生徒個々に合った学習計画を立て、各自の計画にそって学習できる環境を整えた。この「特別支援教室」に通うことによって、横浜市立A中学校では、30人いた不登校生徒が一年後には1人になったという成果を上げている。
- 【「だれもが行きたくなる学校づくり」の推進（岡山県総社市）】
 ただ単に起きた事案に一つ一つ対処していく対症療法的生徒指導から、未然防止を目指した「プログラムによる生徒指導」への脱却。プログラムによる生徒指導は、アメリカや欧州、オーストラリア、香港等の諸外国では、広く用いられている。
 具体的な取組内容としては、児童生徒の基本的欲求である交流の欲求を満たす良質のコミュニケーションの場を大量に提供し、児童生徒相互のソーシャルボンド（社会的絆、関係の束）を構築することで、温かい人間関係のある学校風土がつけられ、だれもが行きたくなる学校になることをねらった取組を実施している。
 平成22年度に3.63%だった中学生不登校出現率が、平成28年度には1.63%に減少している。
- 【参考文献】 平川理恵：クリエイティブな校長になろう（教育開発研究所）
 だれもが行きたくなる学校づくり入門（総社市教育委員会）

4 現状の施策と今後の取組の方向性

目標	不登校の段階	学習の支援	社会性の支援
学校生活に楽しさが見出せる	登校できている	学校 ・わかりやすい授業 ・支援員による個別の対応 学校外 ・放課後児童クラブ、放課後子ども教室等における学習支援	学校 ・温かな学級づくり ・日々の生活や行事を通じた絆づくり 学校外 ・医療機関、福祉機関との連携
	欠席30日未満（登校しぶり） 教室登校	不登校になるきっかけに注目した支援 ・教職員の研修の充実 ・学校外と連携するための小中学校の生活における気づきを共有する仕組みの確立 ・幼児言語教室の拡充	児童生徒の課題に応じたきめ細かな対応 ・教職員の研修の充実 ・ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング等の推進
	欠席30日以上（登校できている） 教室登校		
学校に行けない時でも社会との絆がつけられる	欠席30日以上（登校できている） 別室登校	学校 ・別室にて個別学習の支援 ・参加意欲の持てる授業への参加 学校外 ・福祉機関と連携した学習支援	学校 ・集会や学年活動への参加 ・修学旅行等の学校行事への参加 学校外 ・医療機関、福祉機関との連携
	ほとんど欠席（たまに登校する）	どの学校でも同じように対応 ・教育委員会も関わって、市全体で総括的に対応 ・各学校における相談室（別室）の充実	関係機関と一体となった取組 ・個に応じた関係機関についての説明や紹介 ・特別支援教育センターと早期連携
学校に行けない時でも社会との絆がつけられる	ほとんど欠席（たまに登校する）	学校 ・家庭でできる課題の提示及び確認 学校外 ・適応指導教室等における学習支援	学校 ・家庭訪問した教職員とのコミュニケーション 学校外 ・適応指導教室等における友達関係作り
	まったく登校できない	不登校時の学習支援の充実 ・駿河区に適応指導教室「かがやく教室」を新設 ・適応指導教室におけるICT教材の活用	支援が途切れない体制づくり ・保護者会や保護者向け学習会の充実 ・保護者向け講演会等の実施 ・不登校児童生徒が参加できるキャンプ等の体験活動の実施